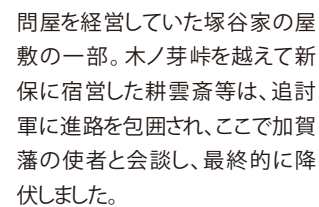


[illegible]

(新保27-30)

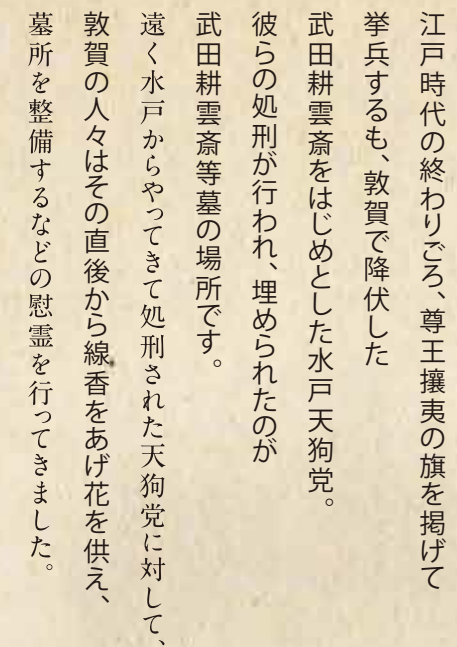


(通常は内部の公開はしていません)

幕府側に身柄が引き渡された天狗党は、16棟の荷蔵に監禁されました。昭和29年に港近くにあった1棟が松原神社境内に移築され、令和5年に現在の位置に再移築されました。さらに1棟が水戸の回天神社境内に移築されています。

天狗党の慰霊祭祀のために  
創建された神社。毎年10月10  
日に例大祭が執り行われてい  
ます。

水戸天狗党の取り調べのために、仮白洲が設けられた場所です。境内に「浪人騒動決断白洲之址」が建立されています。



# Graves of Takeda Kounsai and Tenguto Part Guide Book



## 時代背景

幕末は、ペリーが来航して250年続いた鎖国が終わり、徳川慶喜が大政奉還を行い江戸幕府が終焉するまでの激動の時代です。開国をめぐり、天皇を尊び、異国を排斥する尊王攘夷の運動が大きくなっていました。安政の大獄や桜田門外の変など幕府政治が大きく揺らいだ事件に深く関わっていた水戸藩では、藩政をめぐって内部でも争いが起きていました。





元治元年（1864）3月27日、藤田小四郎が「攘夷の先鋒」となるべく、即時鎖港の要求・支援のため天狗党の藩士など、同志60人余りと共に筑波山にて挙兵しました。同じ水戸藩の諸政党はこれを鎮圧するべく戦いを挑み、水戸藩、幕府軍を巻き込んだの戦闘となりました。

幕府軍と敵対することとなった武田耕雲斎や藤田小四郎などの天狗党は、京都にいる一橋慶喜を通して朝廷に挙兵の志を訴えるために、西を目指すことになりました。

## 京都への行軍、幕府軍との対峙

11月1日、約1000人で進軍をはじめた天狗党は、中山道での戦闘を避けるため越前へ進路をかえました。越前国（福井県）に入った時には12月になっており、雪の中の進軍となりました。敦賀に入った天狗党は新保の塚谷家を本陣としました。

一方、一橋慶喜は朝廷から天狗党追討を許され、大津へ出陣。追討軍の先鋒である加賀藩は葉原へ布陣しました。



雪の武田耕雲斎本陣跡

## 天狗党の降伏

慶喜と敵対することとなった天狗党は、12月17日、加賀藩に降伏しました。降伏した天狗党823人は敦賀市中へ連行され、本勝寺・本妙寺・長遠寺へ収容されました。

加賀藩は天狗党に同情的で酒や食料、正月の餅の差し入れをするなど丁寧に扱いました。



寺の周囲を加賀藩士が見張っている

## にしん 鯰蔵への幽閉

ところが、年が明けて元治2年（1865）1月29日、加賀藩から幕府へ引き渡された天狗党は、一転して舟町に立ち並んでいた、普段は鯰肥料を保存しておく荷蔵16棟に約50人ずつが押し込められました。

鯰蔵での幽閉生活は劣悪な環境であったため病死者も続出しました。



## 敦賀の人々による追悼

江戸時代、死罪となった人には埋葬や供養も許されませんでした。しかし、水戸から遠く離れた地で処刑となった天狗党をかわいそうに思った敦賀の人々によって、処刑直後から敦賀市内の諸寺で法要が行われたり、墓に参る人が絶えませんでした。線香の煙で墓がみえないほどだったといわれています。5つの塚となっていた遺体を埋めた場所も、翌年には1つの大きな塚に作り直されました。その後も塚は何度か改築が行われています。

天狗党が処刑された2年後の慶応3年（1867）、将軍となった徳川慶喜によって大政奉還が行われ、江戸時代は終わりを迎えます。

## 敦賀と水戸の交流

天狗党の慰霊のため松原神社が創建され、今でも例大祭が行われています。昭和39年（1964）10月、松原神社100年祭が行われ、これをきっかけとして翌40年4月に敦賀市と水戸市で姉妹都市提携が結ばれました。現在では、敦賀市と水戸市に加え、天狗党の人々の出身地である常陸太田市、潮来市とも交流が続いています。



## 人物

武田耕雲斎（墓碑銘は武田伊賀守）
水戸藩9代藩主斉昭の家臣として、藩政や幕政に関わる。水戸での内乱の中で筑波山で挙兵した藤田小四郎と合流し、総大将となる。元治元年（1864）11月1日、水戸藩内の争いに敗れ、京都を目指す。その際、強引な金策などを禁じた軍律を定めた。敦賀で、一橋慶喜率いる討伐軍の先鋒・加賀藩に降伏。2月4日に処刑された。
藤田小四郎
徳川斉昭の腹心であった藤田東湖の四男。同志など60人余りとともに筑波山にて挙兵。一部の者による強引な資金集めが問題視され、追討軍が派遣され、幕府軍と戦う。武田耕雲斎を説得して天狗党の首領とし、攘夷の意思を朝廷に訴えるべく、京都を目指す。敦賀で降伏。武田耕雲斎らと共に処刑された。
一橋慶喜（徳川慶喜）
徳川御三家の1つ水戸藩9代斉昭の息子。のちの徳川15代将軍。天狗党の事件の時は、御三卿のひとつ一橋家の当主であり、京都で禁裏御守衛総督（京都御所の守護）の職にあった。天狗党が京都へ向かっていることを知った慶喜は、天狗党を追討するため、幕府軍を指揮し出陣。先鋒の加